

1. 教育の責任

大手前大学の人材養成等教育研究上の目的をふまえ、国内外における文化財の情報発信と共有を行い、情報科学を活用した文化財の利活用と保存活動に寄与できる学生の養成を目標とする。文化財を教育研究の対象とし、文化財についての深い洞察力和教養を身につける。文理の領域にとらわれず広い視野をもった人材を養成し、地域文化財を守り伝えることに努める。

2. 教育の理念

学生自身が自主的に学修できるよう、また多方向からの学修アプローチがあることを学ぶことを心がけている。本学の教育目的であるキーワード「専門的学術、自己開発精神、国際感覚及び問題解決能力」をふまえ、知識偏重にならないよう、体験によって得られた知識を育むことを重視する。このことから、授業時においても実験や作業を通じ学修や問題解決をはかることを考えている。専門的学術には多様な学問分野が交わることを経験から学び、自ら新たな分野を開拓できる自ら考え行動できる人材を育てていきたいと考えている。

3. 教育の方法

教育の目的と目標

「地域文化財実習」では、文化財は地域と密接に関係し、さまざまな地域社会の課題を反映している。地域や日本の歴史を理解し、博物館、保存修復施設を見学し、現在の活用方法を検討できる能力を養うことを目指す。

「考古学実習」では、考古学における調査方法を実践的に体験し、三次元計測など新たな調査方法なども学び、調査手法の目的や方法、技術を学ぶことを目指す。

教育実践

「地域文化財実習」、「考古学実習」では、史学研究所の資料ならびに機材を使用することによって、実際の調査研究と同じ方法で資料を調べるなど実験・実習を通じた学修を行い、テキストでは理解しにくい内容の理解の向上をねらっている。

また、非対面授業においては、現物の資料を観察することが困難なことから、代替として Web による三次元モデルを提供し観察を行い、資料調査を行うことも行っている。

4. 教育の成果

(1) 授業見学・授業アンケート等の内部評価

授業アンケートにおいて、半数は授業内容を理解できたか、やや理解できたと回答している一方授業学習の時間が短く、自主的な学習時間を引き延ばすのが今後の課題である。実験や実習を通じて理解度は向上しているが、レポート等の課題において、自主的に資料を収集し要約するなど学習時間を引き延ばせるように学習を導きたい。

(2) 学会・研究会、高大連携、産学連携等における外部評価

受賞：可視化学会 第 28 期学会賞 技術賞 (カテゴリ I) 2018

学会発表：「ハンディーレーザ計測技術を用いた五塚原古墳出土遺物の三次元計測」文化財保存修復学会第 42 回大会 電子媒体発表 2020 年 6 月 20 日

「神戸製鋼神戸製鉄所第 3 高炉における三次元計測活動」日本文化財科学会第 37 回大会 Web 発表 2020 年 9 月 5 日

産学連携：向日市埋蔵文化財センター、天理市教育委員会との共同研究協定（史学研究所）により、各文化財の三次元計測を行い、Web への三次元モデル公開を行う。2019～現在

「マチュピチュ 3 次元計測」凸版印刷と TBS との連携により世界で初めて広範囲に及ぶマチュピチュ遺跡の三次元計測

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：現代社会学部 名前：岡本 篤志 作成日：2023年12月26日

を実施『インカ帝国展 マチュピチュ「発見」100年』（2012年開催巡回展）にて公開するVR映像作品の三次元計測に協力。2012

展示：向日市埋蔵文化財センター展示協力 向日丘陵古墳群の地形データを加工、3Dプリンターによる模型製作・展示。『乙訓古墳群出現前夜』2020年10月3日～11月29日

兵庫県立考古博物館企画展協力 出土品の環頭大刀三次元データを元に、3Dプリンターによるレプリカを作成・提供し展示・ハンズオンに活用。『金銀銅の考古学』2020年7月23日～8月30日

5. 改善への努力と今後の目標

文化財の記録方法として三次元計測機を使用した実習を史学研究所と連携し積極的に授業に取り入れていく。また、レプリカや調査セットなど学習セットを用意し授業を円滑に行えるようにできればと考えている。

文化財修復に関連した内容では、実際の作業も行いながら座学だけでは理解しにくい内容を学修できるようにしていきたい。将来的には、自己学習を補助するものとして、課外活動において「チュートリアル」を開設し、学部制限を設けずより深く学習を行いたい学生に対してグループ学習を行える機会をつくりたいと考えている。

【添付資料】

- 2022年授業アンケート
- 「大手前大学」シラバス
- 科学技術振興機構（JST）Researchmap